

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2単位	学年	1年	履修対象	全員
教科書・副読本		現代の国語（筑摩書房）							
育成する資質・能力						評価の方法			
知識・技能						知識・技能			
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						定期考査 指名音読・発問に対する返答			
思考力・判断力・表現力						思考力・判断力・表現力			
論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める。						定期考査 発問に対する返答			
主体的に学習に取り組む態度						主体的に学習に取り組む態度			
言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						授業態度・提出物・小テスト・課題考査 課題・発表などへの取り組み状況			
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1学期	① 問うこと語ること 「境目」川上弘美		・ 本文において「境目」という言葉がどのように用いられているかを読み取る。						
	② 評論文への招待 「システムと変異」中屋敷勻		・ 自分の体験を「～の境目」という言葉で表現し、グループの中で発表した後、文章にまとめる。						
	③ ことばで伝える 「ことばがつくる女と男」中村桃子		・ 本文中の図解を参照しながら読解する。						
	④ 情報と推論 「兔が自分でつぶって語る生活の話」Eシートン		・ 本文におけるキーワードについて、グループで話し合い、文章にまとめる。						
2学期	⑤ 話し合いから議論へ 「誰かの靴を履いてみること」ブレイディみかこ		・ 本文の三つの部分が全体の構成上どのような役割を果たしているかを考える。						
	⑥ 根拠から主張へ 「未来は存在しない」野矢茂樹		・ 言語行為とアイデンティティのつながりについて、具体的例によって考察する。						
	⑦ 伝えること、受け止めること 「会話と対話」長田弘		・ 文章と筆者のスケッチを比較することでどのようなことが読み取れるか、話し合う。						
	⑧ 表現のみがき方 「瓦を解かないこと」堀江敏幸		・ 筆者の推論過程を、順序だてて図解する。						
	⑨ 話し合いから議論へ 「誰かの靴を履いてみること」ブレイディみかこ		・ 本文中の会話文と描写が果たしている効果について話し合う。						
	⑩ 根拠から主張へ 「未来は存在しない」野矢茂樹		・ 筆者の表現の工夫をふまえて、自分の体験談を文章にして発表する。						
	⑪ 伝えること、受け止めること 「会話と対話」長田弘		・ 本文中の「真」「偽」「命題」という論理学の用語の意味を調べる。						
	⑫ 表現のみがき方 「瓦を解かないこと」堀江敏幸		・ 未来は存在しない」という主張は、私たちの「当たりまえ」とどのように異なっているか、考える。						
	⑬ 話し合いから議論へ 「誰かの靴を履いてみること」ブレイディみかこ		・ 自分の「当たりまえ」を覆されたと感じた体験について発表する。						
	⑭ 根拠から主張へ 「未来は存在しない」野矢茂樹		・ 筆者の考え方をふまえながら、現在の社会問題を取り上げ、賛成と反対の立場に分かれて話し合い、結論を導き出す。						
	⑮ 伝えること、受け止めること 「会話と対話」長田弘		・ 話し合いを通じて、「対話」の重要性について考える。						
	⑯ 表現のみがき方 「瓦を解かないこと」堀江敏幸		・ 言葉のイメージの連鎖と巧みな比喻を読み取り、「瓦解」という言葉について考察する。						

3 学 期	⑨ 主張の論理的な伝え方 「主体と言う物語」小坂井敏晶 ⑩ 複眼的な視点 「過去はどこへ行っちゃったの？」	・ 筆者の論述の仕方を読み取り、主張を説得力のある論述とするために必要なことを学ぶ。 ・ 主張したい仮説を立てそれを支える論拠となる資料を集めて検討する。二つの文章を対比し、視点の違いを捉え、それぞれの背後にある思考を確認する。
-------------	---	--

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 3 ： 4 ： 3 【評価母集団】1 学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	--

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2単位	学年	1年	履修対象	全員
教科書・副読本		精選言語文化（東京書籍）							
育成する資質・能力							評価の方法		
知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。							知識・技能 定期考査		
思考力・判断力・表現力 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。							思考力・判断力・表現力 定期考査		
主体的に学習に取り組む態度 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							主体的に学習に取り組む態度 課題考査、授業態度、提出物、小テスト、課題・発表などへの取り組み状況		
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1学期	古文の世界に親しもう 『宇治拾遺物語』		学習活動 ・古文を読解するための基礎知識である歴史的仮名遣い・活用・品詞の種類を習得する。 ・親しみやすい古典文章に触れ、古文の世界に親しむ。 評価のポイント ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読の決まり、古典特有の表現などについて理解できる。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。						
	近代以降の文学作品を読み、作品の特徴を考えよう 『羅生門』		学習活動 ・小説に描かれた登場人物・情景・心情などを表現に即して読み取る。 評価のポイント ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できる。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。						
	古典作品に登場する人物について考えよう 『竹取物語』		学習活動 ・物語における表現の特色を理解し、かぐや姫の成長の様子を読み取る。 ・古文を読解するための基礎知識として用言の活用を習得する。 評価のポイント ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読の決まり、古典特有の表現などについて理解できる。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感						

	訓読に親しもう 訓読の基本 『矛盾』	じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 学習活動 ・ 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 ・ 漢文の訓読に慣れるとともに、故事成語の由来となった故事を読解する。 評価のポイント ・ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できる。
2 学 期	和歌を詠み、込められた心情について考えよう 『伊勢物語』	学習活動 ・ 古文を読解するための基礎知識として助動詞・助詞のはたらきを習得する。 ・ 和歌に込められた心情を読み取り、話の中で和歌が果たしている役割を捉える。 評価のポイント ・ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解できる。 ・ 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。
	日記に登場する人物の関係や心情を読み取ろう 『土佐日記』	学習活動 ・ 人々の心情を読み取るとともに、作者の表現の工夫や執筆意図を理解する。 評価のポイント ・ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解できる。 ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。
	漢文の世界に親しもう 『狐借虎威』	学習活動 ・ 話の構成や展開を確かめ、寓話の内容や表現の仕方について理解する。 評価のポイント ・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することが出来る。 ・ 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。
	詩歌に親しみ、そこに描かれた世界を読み味わおう 『I was born』	学習活動 ・ 詩独特の表現技法や構成を理解する。 ・ 詩歌に描かれた世界を読み味わう。 評価のポイント ・ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解できる。 ・ 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。

	自分の体験について表現しよう	学習活動 ・今まで学習してきた詩歌や和歌や小説を参考に、自分の体験や考えを散文で表現する。 評価のポイント ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、語句などの表現の工夫を工夫することができる。
3 学 期	文章の展開や表現の特色に注目しながら物語を読もう 『平家物語』 漢詩に親しもう 絶句と律詩	学習活動 ・古文を読解するための基礎知識として、助動詞・助詞のはたらきを習得する。 ・和漢混交文の特徴や表現の工夫を理解するとともに、当時の人々の考え方を捉えられる。 評価のポイント ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めることができる。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 学習活動 ・漢詩の形式や技法を理解するとともに、作者が自然や人事に向けた思いを読み取る。 評価のポイント ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや訓読の決まり、古典特有の表現について理解することができる。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深められること。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】1学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	--

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2単位	学年	1年	履修対象	全員
教科書・副読本		『明解歴史総合』（帝国書院、歴総706）『明解歴史総合ノート』							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 世界と日本を広く相互的な視野からとらえ近現代の歴史について理解する。 資料から情報を調べまとめる技能を身につける 思考力・判断力・表現力 歴史事象の意味や意義などを相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面・多角的に考察する。 考察したことを説明し議論したりすることができる。 主体的に学習に取り組む態度 近現代の歴史についてよりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。					知識・技能 定期考査・課題考査・小テスト・提出物・討議・発表など 思考力・判断力・表現力 定期考査・課題考査・小テスト・提出物・討議・発表など 主体的に学習に取り組む態度 授業にとりくむ姿勢、提出物・討議・発表など				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1学期	1-1歴史と私たち 1-2歴史の特質と資料 〔2〕近代化と私たち 1江戸時代の日本と結びつく世界 2欧米諸国における近代化 3近代化の進展と国民国家の形成 4アジア諸国の動揺と日本の開国		身近な事象と歴史のつながりについて考察し考えを表現する 資料の重要性、事実と解釈を分けた適切な読みとりなどについて理解する 18世紀の日本やアジア、ヨーロッパはどのように結びついていたのか ー交易の様子を概観しその影響を理解する。交易の意義と地域の変容について考察し表現する 市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのか ー市民革命・産業革命の経緯を理解する。その影響などを考察し表現する 近代化の進展とともにどのような国家が形成されていったのか ー国民国家の形成・発展を理解し、その影響などを考察し表現する 欧米諸国の進出にアジア諸国や日本はどのように対応したのか ーアジア諸国の変容について理解する。その歴史的意義を考察し表現する						
2学期	5近代化が進む日本と東アジア 〔3〕国際秩序の変化や大衆化と私たち 1第一次世界大戦と日本の対応 2国際協調と大衆社会の広がり 3日本の行方と第二次世界大戦		日本や東アジア諸国は近代化を通じてどのように変化していったのか ー明治維新やアジア諸国の変容について理解する。その影響やその変容がどのような課題をあたえたかについて考察し表現する 第一次世界大戦は世界の人びとにとってどのような戦争になったのか ー大戦の経緯と社会の変化について理解し、その影響などを考察し表現する 世界各地に広まった大衆化とはどのようなものか ー国際秩序と大衆社会の特徴や生みだした課題を理解し、考察・表						

	4再出発する世界と日本	現する 大衆はなぜ戦争に協力していったのか－ファシズム体制から終戦に至るまで －世界恐慌から終戦に至るまでの経緯について理解し、考察・表現する 第二次世界大戦を経て国際秩序はどのように変化したのか －戦争経験が人びとになにをもたらしたのかを理解し、考察・表現する
3 学 期	[4] グローバル化と私たち 1冷戦で揺れる世界と日本 2多極化する世界 3グローバル化のなかの世界と日本	「グローバル化」について考察し、現代的な諸課題の形成と展望を考える 冷戦が展開されるなかで日本や世界の国々はどのような選択をしたか －冷戦下の各国の動向、生みだした課題について理解し、考察・表現する 冷戦下、日本や世界の国々はどのような成長・変化を遂げたのか －各国の選択と成長・変化やその意義について理解し、考察・表現する グローバル化は世界をどのように変えたのか －グローバル化の特質や生みだした課題について理解し、考察・表現する

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】1学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	--

教科	公民	科目	公共	単位数	2 単位	学年	1 年	履修対象	全員
教科書・副読本		『新版 公共』（数研出版、公共713）、『公共整理ノート』（数研出版）、資料集							
育成する資質・能力						評価の方法			
知識・技能 選択・判断の手がかりとなる概念や理論、および倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめている。						知識・技能 定期考査・課題考査・小テスト・提出物・討議・発表など			
思考力・判断力・表現力 現代の諸課題について、事例を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。						思考力・判断力・表現力 定期考査・課題考査・小テスト・提出物・討議・発表など			
主体的に学習に取り組む態度 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。						主体的に学習に取り組む態度 授業にとりくむ姿勢、提出物・討議・発表など			
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	第 1 章「公共的な空間をつくる私たち」 第 2 章「公共的な空間における人間としてのあり方生き方」		・青年期と自己形成、ギリシア思想や中国思想など先哲の思想、三大宗教の内容などについて理解を深める。主体的に追究・考察し、自らのものとしようとする。 ・地球環境問題や資源・エネルギー問題など現代の諸課題について理解を深め、公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考える。主体的に追究・考察し、自らのものとしようとする。						
2 学期	第 3 章「公共的な空間における基本原理」 第 4 章「現代の民主政治と政治参加の意義」 第 5 章「現代の経済社会と経済活動のあり方」		・民主社会の基本原則、日本国憲法の三大原則や憲法が保障する権利などについて理解を深める。主体的に追究・考察し、自らのものとしようとする。 ・日本の政治機構、選挙のしくみや政党の役割、地方自治の現状と課題などについて理解を深める。主体的に追究・考察し、自らのものとしようとする。 ・経済のしくみと市場機構、財政と金融、日本経済のあゆみと変化、雇用・労働問題や社会保障について理解を深める。主体的に追究・考察し、自らのものとしようとする。						
3 学期	第 6 章「国際社会の動向と日本の役割」 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		・国際法の意義、国際連合の役割と組織、国際政治の動向と日本の役割、国際経済の動向や課題と国際協力の意義などについて理解を深める。主体的に追究・考察し自らのものとしようとする。 ・現代社会の諸課題について、その課題の所在や現状などについて理解を深める。諸課題について、資料を収集・選択、分析するなど主体的に追究・考察し、自らのものとしようとする。						
履修条件・注意事項等			【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4：4：2 【評価母集団】 1 学年全員（一般クラス、国際教養コース）						

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3 単位	学年	1 年	履修対象	全員
教科書・副読本		数学 I Advanced（東書 数 I 701）、Advanced Buddy PRIME 数学 I + A（東京書籍）、チャート式 解法と演習 数学 I + A（数研出版）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟させる。 思考力・判断力・表現力 数学を通じて、事象を数学的に考察し、数学的表現力を培う。 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					知識・技能 定期考査および小テスト等 思考力・判断力・表現力 定期考査等 主体的に学習に取り組む態度 課題考査、小テスト、課題提出等				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	1章 数と式 1節 式の計算		1 単項式と多項式 式についての用語の意味を理解する。また特定の文字や式の次数への着目を通して、式について多様な見方をすることができる。 2 多項式の加法・減法・乗法 多項式の加法・減法、指数法則、多項式の乗法について基本的な計算ができる。 3 因数分解 乗法公式と関連付けながら因数分解の公式を理解し、たすき掛けを含む因数分解ができる。						
	2節 実数		1 実数 中学校までに学習した数を分類統合し、実数について理解する。また、絶対値の定義を数直線と関連づけて理解し、絶対値の性質について理解する。 2 根号を含む式の計算 平方根の定義を理解し、根号を含む式の計算をすることができる。また分母の有理化を理解し、分母に根号を含む基本的な分数について有理化したり計算したりすることができる。						
	3節 1次不等式		1 不等式とその性質 2 1次不等式の解法 3 不等式の応用 不等式を解くことの意味を理解する。また、不等式の性質をもとに1次不等式を解く方法を考察するとともに、その解を求めることができる。						
	2章 集合と論証 1節 集合		1 集合 集合に関する基本的な概念を理解し、集合と要素の関係や集合どうしの関係について記号や図を用いて適切に表現することができる。またド・モルガンの法則を理解し、利用することができる。						
	2節 命題と論証		1 命題と条件 命題や条件に関する基本的な概念を理解する。また、命題の真偽や条件どうしの関係を、条件が満たすものの全体の集合の包含関係と関連付けて考えることができる。						

2 学 期	3章 2次関数 1節 関数とグラフ	2 論証 命題の逆・裏・対偶を理解し、対偶を利用した証明法や背理法を用いて簡単な証明をすることができる。 1 関数 2 2次関数とそのグラフ 3 2次関数の最大・最小 定義域に応じて、2次関数の最大値・最小値を、グラフを利用して求めることができる。また、日常の事象の問題解決に2次関数を活用することができる。 4 2次関数の決定 2次関数のグラフについて、与えられた条件を満たす2次関数を求めることができる。
	2節 2次方程式・ 2次不等式	1 2次方程式の解法 2 2次方程式の実数解の個数 2次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ の実数解の個数と判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号との関係を理解する。 3 2次関数のグラフとx軸の共有点 4 2次不等式 5 2次不等式の応用 関数のグラフを利用して不等式を解く方法を理解し、2次不等式を2次関数のグラフを利用して解くことができる。
	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の拡張 3節 三角形への応用	1 直角三角形と三角比 2 三角比の相互関係 鋭角の三角比の意味を三角形の構成要素間の関係に関連付けて理解し、様々な場面に応用することができる。 1 三角比と座標 2 拡張した三角比の相互関係 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、0° から 180° までの三角比を求める方法を理解する。また、三角比のとり得る値の範囲や直線の傾きと正接の関係について理解する。 1 正弦定理 三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係を考え、正弦定理を導くことができる。また三角形の決定条件と関連付けて正弦定理を理解し、利用することができる。 2 余弦定理 三平方の定理の拡張として、三角形の辺と角の間に成り立つ関係を考え、余弦定理を導くことができる。また、三角形の決定条件と関連付けて余弦定理を理解し、利用することができる。 3 三角形の面積 三角形の面積を、三角比を用いて表す方法を理解する。また、円に内接する四角形の面積を求めることができる。 4 空間図形の計量 空間図形の構成要素に着目して、三角比を空間図形の計量に応用することができる。
3 学 期	5章 データの分析 1節 データの散らばりの大きさ 2節 データの相関	1 データの分布とグラフ 2 分散と標準偏差 3 分散、標準偏差の性質 データの散らばり具合を数値で表す方法の考察を通して偏差、分散、標準偏差を理解し、それらの値を求めることができる。また、分散や標準偏差を利用して複数のデータの散らばりの大きさを比較することができる。 1 散布図と相関関係 2つの変量の組からなるデータについて、散布図および相関係数を用いて相関関係を捉えることができる。また、外れ値を知り、外れ値の統計量への影響について理解する。

3節 データの分析 の応用	1 データの分析を利用した問題の解決 統計的手法を用いた問題解決の枠組みについて知る。また、目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフや手法を選択して分析を行い、データの傾向を把握して問題解決に利用することができる。
4節 仮説検定の考 え方	1 仮説検定の考え方 仮説検定の考え方を理解し、仮説検定の考え方を利用して不確実な事象に関する主張の妥当性について考察することができる。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】1学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	--

教科	数学	科目	数学A	単位数	2 単位	学年	1 年	履修対象	全員
教科書・副読本		数学A Advanced（東書 数A701）、Advanced Buddy PRIME 数学Ⅰ＋A（東京書籍）、チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋A（数研出版）							
育成する資質・能力						評価の方法			
知識・技能 場合の数と確率、整数の性質、図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能を習熟させる。 思考力・判断力・表現力 数学を通じて、事象を数学的に考察し、数学的表現力を培う。 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						知識・技能 定期考査および小テスト等			
						思考力・判断力・表現力 定期考査等			
						主体的に学習に取り組む態度 課題考査、小テスト、課題提出等			
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	1章 場合の数と確率 1節 場合の数		1 集合の要素の個数 2 樹形図と場合の数 3 順列 4 組合せ 集合の要素の個数に関する基本的な関係を理解し、日常の事象の問題解決に活用することができる。 樹形図を用いた数え上げや、和の法則、積の法則という数え上げの原則を理解し、場合の数を求めることができる。 順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。また、状況に応じて、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。また、状況に応じて、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。						
	2節 確率とその基本性質		1 事象と確率 2 確率の基本性質 事象という観点から確率を捉え直し、確率の意味を理解する。 確率の基本性質について集合と関連付けながら理解し、性質を利用して確率を求めることができる。						
	3節 いろいろな確率		1 独立な試行の確率 2 反復試行の確率 3 条件付確率 4 期待値 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 反復試行の意味を理解し、反復試行の確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 条件付き確率の意味と確率の乗法定理について理解し、条件付き確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 期待値の意味を理解し、期待値を求めることができる。また、期待値を意思決定に活用することができる。						
	2章 図形の性質 1節 三角形の性質		1 内分・外分と三角形の重心 2 三角形の外心・垂心 3 角の二等分線と三角形の内心 4 三角形における比の定理						

2 学 期	2節 円の性質	内分や外分について理解する。また、三角形の重心の定理について理解する。 三角形の外心の定理、三角形の垂心の定理について理解する。また、三角形の重心・外心・垂心の関係について、論理的に考察し説明することができる。 角の二等分線と比の定理について理解する。また、三角形の内心の定理について理解する。 メネラウスの定理、チェバの定理について理解し、論理的に考察し説明することができる。 1 円周角の定理とその応用 3 2つの円 2 方べきの定理 4 内分点の作図と平方根の作図
	3節 空間図形	同一円周上にある点を結んでできる角についての様々な定理を理解し、利用することができる。また、これらの定理の関係について、統合的に考察することができる。 接線の長さの定理、方べきの定理とその逆について理解する。 2つの円の位置関係とそれらの共通接線について理解する。 平行線の作図、内分点の作図、平方根の作図について理解する。 1 直線と平面 2 正四面体 空間における直線と平面の基本的な性質について理解する。また、直線と平面の垂直条件、三垂線の定理について理解する。 正四面体の性質について、論理的に考察し説明することができる。
3 学 期	3章 数学と人間の活動 1節 生きている数学	1 身近にある数学 2 文明と数学 日常の事象を数学の考えを用いて考察し、問題解決にそれらを利用することができる。また、平面や空間において点の位置を表す座標の考え方と人間の活動との関りについて理解する。 歴史的な話題を通して数学と文化との関りについての理解を深め、数量や図形に関する概念などと人間の活動との関りについて理解したり、目的に応じて考察したりする。
	2節 考える楽しみ	1 遊びの中の数学 2 整数の世界 パズルやゲームなどに数学的な要素を見いだし、目的に応じて考察することができる。また、数理的なゲームやパズルを通して、数学と文化との関りについての理解を深める。 約数や倍数、ユークリッドの互除法、2進法などの整数の性質と人間の活動との関りについて理解する。また、それらの整数の性質について、関心に基づいて発展させ考察することができる。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】1学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	--

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2 単位	学年	1 年	履修対象	国際教養コース
教科書・副読本		科学と人間生活（東京書籍） 新課程 ニューサポート 科学と人間生活（東京書籍）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 日常生活の中に存在する科学の基本的な原理・法則を理解する。					知識・技能 定期考査・小テスト・提出物等				
思考力・判断力・表現力 図やグラフを用いて問題解決をしたり、実験を通して得られた結果を整理分析する。					思考力・判断力・表現力 定期考査・小テスト・提出物等				
主体的に学習に取り組む態度 目的意識をもって観察、実験などを行い、科学を探究する能力と態度を育てる。					主体的に学習に取り組む態度 授業にとりくむ姿勢、演習問題に前向きに取り組む姿勢等				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	第 1 編 生命の科学		① 微生物とその利用 さまざまな微生物の成り立ちや働きを理解し、日常生活における微生物の役割など、自身の考えを適切に表現できること。 ② ヒトの生命現象 ヒトの体の働きや遺伝現象を理解し、調製のしくみや免疫に関わる現象などを表現できること。						
2 学期	第 2 編 物質の科学 第 3 編 光や熱の科学		① 材料とその再利用 ② 金属とプラスチックの成り立ちについて学び、再生可能な資源の再利用について理解し、自然環境の保護などについて表現できる。衣料と食品、天然繊維や合成繊維について学び、その性質を理解し、日常生活の中での利用について、表現できる。 体に必要な物質を知り、それらの構成物質の役割を理解し、ヒトの体の成り立ちについて表現できる。 ① 光の性質とその利用 可視光の色や波としての性質を学び、その利用や目に見えない光について理解し、ものが見えることなどを表現できる。 ② 熱の性質とその利用 熱の性質を学び、日常生活の中で熱がどのように利用されているかを表現できる。						
3 学期	第 4 編 宇宙や地球の科学		② 太陽と地球 太陽と地球の関係を学び、太陽によって起こる現象について、表現できる。 ③ 自然景観と自然災害 地球の活動によって作り出された地形などを学び、今後起こりうる自然災害について考え、表現できる。						

履修条件・ 注意事項等	身近な科学に興味を持ち、ただの学問としてではなく、地球環境の保護活動や自然災害への対応に生かしてほしい。 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4：4：2 【評価母集団】1 学年国際教養コース
----------------	--

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2単位	学年	1年	履修対象	一般クラス
教科書・副読本		新編 物理基礎（数研出版）、物理基礎学習ノート（数研出版）							
育成する資質・能力						評価の方法			
知識・技能 自然現象を理解し、現象を量的な関係や、時間・空間的な変化から規則性を捉えることができる。						知識・技能 定期考査・小テスト・提出物等			
思考力・判断力・表現力 自然の規則性をもとに、実験観察に取り組み、結果から様々な考察ができる。また、それを様々な現象に応用できる。						思考力・判断力・表現力 定期考査・実験レポート・提出物等			
主体的に学習に取り組む態度 自然の規則性の理解、現象に対する考察を主体的・科学的に探究することができる。						主体的に学習に取り組む態度 授業にとりくむ姿勢、演習問題に前向きに取り組む姿勢等			
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	第1編 運動とエネルギー		①運動の表し方：速度 加速度 落体の運動 物体の運動を表現することが物理学における基本である。この章では、物体の運動状態を数式やグラフで表現できること。この表現を応用して落体の運動が表現できること。 ②運動の法則：力のつりあい 運動の法則 摩擦を受ける運動 流体から受ける力 物体の運動の状態を変えるものは力である。物体に力がどのように作用するのか判断でき、運動の法則に基づいて、力の大きさや向き、生じる加速度を求めることができること。						
	第1編 運動とエネルギー	第2編 熱	③仕事と力学的エネルギー：仕事 運動エネルギー 位置エネルギー エネルギー保存 物体に力が作用すると、エネルギーが発生する。この章では、仕事を定義できること。また、エネルギー保存則を理解し、この法則に基づいて、運動状態を適切に表現できること。保存力の定義が正しく理解できること。						
2 学期	第2編 熱	第3編 波	①熱とエネルギー：熱と物質の状態 熱と仕事 熱もエネルギーの形態の一つである。この章では、温度の定義を理解し、熱量等の計算ができること。 ①波の性質：波と媒質の運動 重ね合わせの原理 波は音や光など我々と密接な関係があるが、波の概念は物体とは大きく異なっている。この章では、波の性質、伝わり方、重ね合わせの原理を理解し、波の物理量や縦波の横波表示、また合成波の作図ができること。 ②音：音の性質 発音体の振動と共鳴・共振 波の性質を理解し、身近な波の現象である音波について考察する。振動体による現象を理解し、振動数を求めることができること。						
	第3編 波	第4編 電気	①物質と電気抵抗：電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー 電気の性質や、オームの法則を理解し、直流回路の電流、電圧、抵抗の値が計算できること。また、抵抗で生じるジュール熱の大きさを求めることができること。 ②交流と電磁波：電流と磁場 交流と電磁波 直流と交流の違いを理解し、交流の活用方法について理解すること。						
3 学期	第4編 電気		①物質と電気抵抗：電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー 電気の性質や、オームの法則を理解し、直流回路の電流、電圧、抵抗の値が計算できること。また、抵抗で生じるジュール熱の大きさを求めることができること。 ②交流と電磁波：電流と磁場 交流と電磁波 直流と交流の違いを理解し、交流の活用方法について理解すること。						

第 5 編 物理学と社会	①エネルギーとその利用：エネルギーの変遷 資源と発電 ②物理学が拓く世界：身近な技術と物理基礎の内容の関連
-----------------	--

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】1 学年一般クラス 理工系の大学・学部や工業系専門学校への進学を希望する場合、入学試験で「物理基礎・物理」を受験する必要があります。進学希望先の受験科目を調べておきましょう。
----------------	--

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2単位	学年	1年	履修対象	一般クラス
教科書・副読本		高等学校 化学基礎（数研出版） 新課程 Visual Select 化学基礎ノート（数研出版）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め化学の基本的な原理・法則を理解する。					知識・技能 定期考査・小テスト・提出物等				
思考力・判断力・表現力 図やグラフを用いて問題解決をしたり、実験を通して得られた結果を整理分析する。					思考力・判断力・表現力 定期考査・小テスト・提出物等				
主体的に学習に取り組む態度 目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。					主体的に学習に取り組む態度 授業にとりくむ姿勢、演習問題に前向きに取り組む姿勢等				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1学期	第1編 物質の構成と化学結合		③ 物質の構成 日常生活の中にある物質の成り立ちや現象を理解し、自身の考えを適切に表現できること。 ④ 物質の構成粒子 身の回りの物質が原子やイオンからできており、その構造を理解し、物質に関わる現象などを表現できること。 ⑤ 粒子の結合 物質によって粒子の種類や結合の仕方が異なることを理解し、物質の性質について表現できること。						
2学期	第1編 物質の構成と化学結合 第2編 物質の変化		③ 粒子の結合 ① 物質と化学反応式 原子やイオンは非常に小さく、モルというまとめた単位で表すことを理解し、モルを元に物質の量や化学変化の量的な関係を、取り扱うことができること。 ② 酸と塩基の反応 酸・塩基の性質を理解するとともに、中和反応を考えたり、量的な関係を考察できること。						
3学期	第2編 物質の変化		② 酸と塩基の反応 ③ 酸化還元反応 酸化および還元の広い意味での定義を理解し、酸化還元反応およびその量的考えを表現できること。						
履修条件・注意事項等		理工系の大学・学部や工業系専門学校への進学を希望する場合、入学試験で「化学基礎・化学」を受験する必要があります。進学希望先の受験科目を調べておきましょう。 【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】 1学年一般クラス							

履修条件・ 注意事項等	学校指定体操服・水着の着用 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝４：４：２ 【評価母集団】１学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	---

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1 単位	学年	1 年	履修対象	全員
教科書・副読本		『新高等保健体育』『図説新高等保健』（大修館書店）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 個人及び社会生活における健康・安全についての知識・技能 思考力・判断力・表現力 合理的、計画的な解決に向けての思考力、判断力 目的や状況に応じて他者に伝える力 主体的に学習に取り組む態度 明るく豊かで活力ある生活を営む態度					知識・技能 定期テスト 思考力・判断力・表現力 授業ノート・探究活動 主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み、発表等を総合的に判断				
期間	単元			主な学習活動（指導内容）と評価のポイント					
1 学期	1 単元 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考え方と成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康にかかわる環境づくり 4 健康に関する意思決定行動選択 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防 8 生活習慣病の予防と回復			- 健康問題の移り変わりや健康水準の向上について理解する。 - 健康についての考え方や成立要因について理解する。 - 意志決定行動選択を健康問題と関連させて理解し影響を与える要因を理解する。 - ヘルスプロモーションに基づき、個人の健康を向上させるための社会的支援のしくみを理解する。 - 現在の感染症問題の特徴を理解する。 - 問題となっている感染症への対策を理解する。 - エイズ等の性感染症の基礎的な知識とその予防法を理解する。 - 生活習慣病と日常生活との関連性を学び、その予防法を理解する。					
	9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康 14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応			- 運動と健康の関連性を知り、健康維持のための運動の仕方等を理解する。 - 食事と健康の関連性を知り、健康的な食生活を理解する。 - 休養が心身の疲労回復とどのように関わっているか理解する。 - がんについては、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。 - 喫煙が及ぼす健康・社会的問題を理解する。 - 飲酒が及ぼす健康・社会的問題を理解する。 - 薬物乱用が及ぼす健康・社会的問題を理解する。 - 精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解できるようにする。ストレスに適切に対処できるようにその方法を理解する。					

		・精神疾患の予防と回復には、早期に心身の不調に気付くこと、ストレスを緩和することなどが重要であることを理解できるようにする。
3 学 期	2 単元 安全な社会生活 1事故の現状と発生要因 2交通事故防止の取り組み 3安全な社会の形成 4応急手当の意義と救急医療体制 5心肺蘇生法 6日常的な応急手当	・現代社会における交通事故の現状を理解し、交通事故を引き起こす要因についても理解する。 ・安全な運転のために運転者に必要とされるものを理解する。 ・安全な交通社会をつくるための方策や車両の安全対策について理解する。 ・応急手当の意義や手順を理解する。 ・心肺蘇生法の原理・基礎知識・手順を理解する。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法を理解し実行できるようにする。

履修条件・ 注意事項等	予習復習を必ず行う。 課題を忘れずに行う。 授業に集中し、主体的に取り組む。 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】1学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	--

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	単位数	3 単位	学年	1 年	履修対象	全員
教科書・副読本		FLEX English Communication I (増進堂)							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 音声、語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける。本文で扱った発音、読解スキル、文化を理解し、それを用いて正しく英文を表現できる。					知識・技能 小テスト・定期考査 英文を読み、聞き、その内容を理解する技能を身につけているかを評価する。				
思考力・判断力・表現力 コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、書き手の意図などを的確に理解したり、活用して適切に表現したり伝え合ったりできる。					思考力・判断力・表現力 実技・課題・定期考査 本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり書いたりできるかを評価する。				
主体的に学習に取り組む態度 背景にある文化に対する理解を深め、主体的に、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					主体的に学習に取り組む態度 パフォーマンステスト 本文に関連したテーマについて、学習した機能表現を用いて自分の意見を話したり書いたりできるかを評価する。				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学 期	Lesson 1		How Can We Become Stronger? 他者への感謝を表す語彙・表現／助動詞、to不定詞						
	Lesson 2		The Jar of Life 優先順位の決め方に関する語彙・表現／動名詞、間接疑問						
	Lesson 3		It's Always Sunny in Space! エネルギー・宇宙に関する語彙・表現／後置修飾、現在完了形						
	Lesson 4		Malala: Fighting for Women's Rights 国際理解・平和に関する語彙・表現／関係代名詞、過去完了形 ・各Part本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases、Key Language の言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり、書いたりする技能を身につけている。 ・本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやりとりすることができる。						

2 学 期	Lesson 5	Mount Fuji 富士山・芸術の歴史に関する語彙・表現／使役動詞・節を導く 形式主語 it
	Lesson 6	Thomas the Tank Engine and SDGs SDGsに関する語彙・表現／関係代名詞の what、強調構文
	Lesson 7	Virtual Water 水不足に関する語彙・表現／関係代名詞の非制限用法・関係副 詞
	Lesson 8	Wearable Robots May Change Our Life ロボットに関する語彙・表現／仮定法過去、仮定法過去完了 ・各Part本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases、Key Language の言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり、書いたりする技能を身につけている。 ・本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやりとりすることができる。
3 学 期	Lesson 9	Biomimicry－Inspired by Nature 生物模倣に関する語彙・表現／知覚動詞、分詞構文
	Lesson 10	Donald Keene and His Love of Japan 日本文化に関する語彙・表現／前置詞+関係代名詞、完了進行形 ・各Part本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases、Key Language の言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり、書いたりする技能を身につけている。 ・身近なテーマに関する設定を理解し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現しようとしている。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝3：4：3 【評価母集団1】 1学年一般クラス 【評価母集団2】 1学年国際教養コース
----------------	---

教科	外国語	科目	論理・表現 I	単位数	2 単位	学年	1 年	履修対象	全員
教科書・副読本		be ENGLISH Logic and Expression I Smart (いいずな書店)							
育成する資質・能力			評価の方法						
知識・技能 各文法事項を理解し、適切に使うことができる。			知識・技能 小テスト・定期考査 教科書のInteractionsの問題を使って文法を理解し、適切に使うことができるかを評価する。						
思考力・判断力・表現力 力 各活動を通じて、場面に応じたやりとりができる。			思考力・判断力・表現力 実技・課題・定期考査 教科書のタスク活動とActive Learning の学習を通して、パートナーとやりとりができるかどうかを評価する。						
主体的に学習に取り組む態度 各学習目標に合わせた、積極的に表現しようとする態度。			主体的に学習に取り組む態度 パフォーマンステスト 間違えることを恐れずに、対話をしているか、うまく言えないことがあっても別の語句や表現を使って言い換えたりするなどして対話を継続しようとしているか、相槌を打ったり質問をするなどして、相手の話を関心を持って聞いているか、について観察して評価する。						
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	Lesson 1		① 現在形、現在進行形の用法が理解できる。 ② 現在形、現在進行形を用いて自分や自分の周囲について表現できる。 ③ わかりやすく的確に自己紹介しようとする。						
	Lesson 2		① 過去形、過去進行形の用法、過去を表す表現が理解できる。 ② 接続詞を使って、いつのことなのかを明確に表現できる。 ③ 楽しかった思い出について、友人に紹介しようとする。						
	Lesson 3		① 未来形、未来進行形の用法が理解できる。 ② 未来を表すさまざまな表現の用法とその違いが理解できる。 ③ 休日の計画を立て、分かりやすく伝えようとする。						
	Lesson 4		① 現在完了、現在完了進行形の用法が理解できる。 ② 現在完了形と過去形の違いが理解できる。 ③ 旅に関する経験について分かりやすく紹介し、聞いた内容について積極的に質問しようとする。						
	Lesson 5		① 過去完了形、過去完了進行形、未来完了形の用法が理解できる。 ② 過去のある時点より前、未来のある時点までのことを表すことができる。 ③ 何かができなかった理由について分かりやすく説明しようとする。						

2 学 期	Lesson 6	①さまざまな助動詞の用法が理解できる。 ②さまざまな助動詞を使って、自分のできること、できないことを表現できる。 ③好きな食べ物とその理由について、積極的に紹介しようとする。
	Lesson 7	①さまざまな助動詞の用法が理解できる。 ②助動詞を使ってしなければならないこと、すべきことを表現できる。 ③外国の学校の規則を調べ、内容をわかりやすく伝えようとする。
	Lesson 8	①さまざまな助動詞の用法が理解できる。 ②助動詞を使って依頼や提案内容を表すことができる。 ③誰かに何かを依頼する練習を積極的に行おうとする。また、受ける受けないの意思表示をし、受けられない理由を伝えようとする。
	Lesson 9	①さまざまな受動態の用法が理解できる。 ②さまざまな受動態を使って、身の回りのものなどを表現できる。 ③通学路や交通施設についての問題点とその解決策を表現しようとする。
	Lesson 10	①to不定詞の名詞用法が理解できる。 ②何をすべきか、いつすべきかなどを疑問詞と不定詞を使って表現できる。 ③夢や目標と、その実現のためにしたいことを伝えようとする。
	Lesson 11	①to不定詞の形容詞用法、副詞用法が理解できる。 ②形容詞に不定詞を続けてさまざまな意味を表すことができる。 ③目的を表す表現を使って健康維持に必要なことを具体的に述べようとする。
	Lesson 12	①使役動詞、知覚動詞とともに不定詞を使うことができる。 ②不定詞を進行形、受動態、完了形で使うことができる。 ③便利な電化製品について具体的に説明し、相手にその製品を勧めようとする。
	Lesson 13	①動名詞の用法が理解できる。 ②動名詞を受動態、完了形で使うことができる。 ③自分の趣味や興味について述べ、その魅力や自分の取り組みについて伝えようとする。
	Lesson 14	①現在分詞、過去分詞の様々な用法が理解できる。 ②分詞を使って身のまわりの状況を表すことができる。 ③自然や動植物について描写しそれらに関わる問題を説明使用とする。
	Lesson 15	①SV0＋分詞や、知覚動詞＋名詞＋分詞を使った表現ができる。 ②分詞構文を用いて情報を加えることができる。 ③自分の気持ちや感想を加えながら、困った出来事について具体的に伝えようとする。
	Lesson 16	①関係代名詞の様々な用法が理解できる。 ②関係代名詞を使って人や身のまわりのものを詳しく表現できる。 ③発明家や発明品についての具体的情報を調べその発明品の是非についても伝えようとする。

	Lesson 17	① 関係代名詞の非制限的用法が理解できる。 ② 関係代名詞 what を使った表現ができる。 ③ 功績を残した人について調べ、その功績の価値を伝えようとする。 ④ 関係副詞の様々な用法が理解できる。
	Lesson 18	② 関係副詞を使って場所や時、理由などを表現できる。 ③ 修学旅行先にふさわしい場所を提案し、魅力や理由を示そうとする。
	Lesson 19	① 様々な比較表現を理解できる。 ② 身のまわりのものを比較表現を用いて表すことができる。 ③ 老後に暮らす場所、住宅の形態についてそれぞれの利点とその根拠について意見を交わそうとする。
	Lesson 20	① 最上級を用いた表現ができる。 ② 様々な比較表現を用いて周囲の状況を表すことができる。 ③ 社会問題を一つ取り上げ、解決策や将来の予測について述べようとする。
3 学 期	Lesson 21	① 仮定法の基本的な用法が理解できる。 ② 仮定法を使って願望や助言などを表現できる。 ③ 就きたい職業について、理由や魅力について伝えようとする。
	Lesson 22	① 接続詞を伴う様々な表現が理解できる。 ② 論理的なつながりを副詞を使って表現することができる。 ③ グローバル化について自分の意見を示し、反対意見に対する「譲歩」を示そうとする。
	Lesson 23	① 接続詞 that の様々な用法が理解できる。 ② 接続詞 that を使って要求や提案内容を表すことができる。 ③ 地球上で起きている問題を一つ示し、具体例や客観的な情報を表そうとする。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 3：4：3 【評価母集団 1】 1 学年一般クラス 【評価母集団 2】 1 学年国際教養コース
----------------	--

教科	外国語	科目	English Conversation	単位数	2 単位	学年	1 年	履修対象	国際教養コース
教科書・副読本		プリント、視聴覚教材など							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 英語を聞くこと、話すことを通して、言語やその運用についての知識を身につける。 思考力・判断力・表現力 考えや、伝えたいことを場面に応じて言語やその運用について整理し、英語で表現する。 主体的に学習に取り組む態度 コミュニケーションに関心をもち、英語を話す活動を積極的に行い、コミュニケーションをとろうとする。					知識・技能 小テスト・定期考査 学習した表現などを正しく使えるかを評価する。 思考力・判断力・表現力 実技・課題・定期考査 ペアやグループ活動での取り組みを評価する。 主体的に学習に取り組む態度 パフォーマンステスト スピーチ、プレゼンテーションなどの取り組みを評価する。				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	Lesson 1		発音記号と発音 英語の正しい発音を習得する。						
	Lesson 2		英検対策 2 次試験の練習。						
	Lesson 3		ディスカッション 自分の意見を述べたり、相手を説得する表現を学び、実際に練習する。						
	Lesson 4		オンライン国際交流 I オーストラリアの高校生と、日本文化の紹介と意見交換。						

2 学 期	Lesson 5	・ オンライン国際交流Ⅱ 週1回、決められたテーマについてアメリカの高校生と意見交換（文章で）。異文化理解と英語での発信の仕方を学ぶ。
	Lesson 6	・ VTR作成。 決められたテーマについて、日本の現状や自分の考えを英語でまとめ、わかりやすく相手に伝える。
	Lesson 7	・ オンライン国際交流Ⅲ 台湾の高校生と日本文化の紹介と意見交換。
3 学 期	Lesson 8	・ オンライン国際交流Ⅳ ニュージーランドの高校生と、日本文化の紹介と意見交換。
	Lesson 9	・ ディベートプレ指導 ディベートに向けて。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝3：4：3 【観点別評価】1学年国際教養コース
----------------	--

期 間	単元	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント
1 学 期	自 分 ら し い 生 き 方 と 家 族	・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ・男女共同参画社会の実現できる社会を考える。 ・変化する家族・家庭、家族の法律について学び、現在の課題を理解する。
	衣 生 活 を 作 る	・衣服の起源、機能や役割、衣服素材の種類や性能を理解する。 ・衣生活と資源・環境、健康障害や事故などについて学習する。 ・衣服の形やデザインについて学ぶ。 ・被服作品を製作し、構成や縫製について学ぶ。

2 学 期	食生活を作る 消費行動を考える	・栄養素と食品、食品衛生についての知識を身に付け、調理ができるようにする。 ・食品衛生について学び、安全な実習の基礎になるようにする。 ・バランスのとれた食事計画ができるようにする。 ・調理実習を通して、知識を確認し調理技術を向上させる。 ・契約、多様な販売方法や支払い方法、問題商法について知り、解決方法やより良い消費行動を理解する。 ・家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。 ・経済的自立や生涯を見通した働き方、家計のリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて学ぶ。 ・資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行できるようにする。
3 学 期	住生活を作る 子どもとかわる 高齢者とかわる	・住まいの機能、文化、風土、ライフスタイルとのかかわりについて理解する。 ・子どもの心身の発達と特徴について学習する。 ・子どもの保育環境、法律について考え、理解する。 ・高齢社会の現状と課題について理解を深める。 ・高齢者の心身の特徴について理解し、それに対する社会保障制度や社会福祉の重要性について理解する。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】1学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	--

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	2単位	学年	1年	履修対象	全員
教科書・副読本		『最新情報Ⅰ』、『最新情報Ⅰ 学習ノート』（実教出版）、 『パーフェクトガイド情報 Office2019対応』（実教出版）							
育成する資質・能力								評価の方法	
知識・技能 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解を深めるようにする。								知識・技能 定期考査、小テスト 課題製作	
思考力・判断力・表現力 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。								思考力・判断力・表現力 グループワーク、課題製作、発表	
主体的に学習に取り組む態度 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、情報社会に主体的に参画する態度を養う。								主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み、グループワーク、課題製作	
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1学期	情報社会		・ 情報社会の現状について理解する。 ・ 情報の特性について理解する。 ・ 情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。						
	情報社会の法規と権利		・ 知的財産権について理解する。 ・ 他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・ 個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。						
	情報技術が築く新しい社会		・ 社会の中で利活用されている情報技術について理解する。 ・ 様々な情報技術について理解し、課題解決の方法をについて考える。						
	メディアとコミュニケーション		・ メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。 ・ メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・ コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ・ インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。						
	情報デザイン		・ 社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 ・ 情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。						
2学期	情報デザインの実践		・ 報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 ・ プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ・ Web ページ作成の方法について理解する。						
	情報システムの構成		・ コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ・ ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。						
	情報のデジタル化		・ アナログとデジタルの違いについて理解する。 ・ 2進数と情報量の関係について理解する。 ・ コンピュータの演算の仕組みを理解する。 ・ 数値や文字をデジタル化する方法を理解する。 ・ コンピュータでの数値の計算方法について理解する。 ・ 音声をデジタルで表現する方法について理解する。 ・ 静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。 ・ 情報のデータ量を小さくする方法について理解する。						

	情報通信ネットワーク	・ 情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・ Web ページとメールの仕組みについて理解する。 ・ ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。
	情報セキュリティ	・ 脅威に対する様々な安全対策について理解する。 ・ 情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する ・ 情報を安全に取り扱うための技術について理解する。
3 学 期	問題解決	・ 問題解決の手順について理解する。 ・ 問題の発見の方法について理解する。 ・ 問題を明確化する方法について理解する。 ・ 解決案を検討したり、整理・分析したりする方法について理解する。 ・ 合意形成を目指した解決案を決定する方法について理解する。 ・ 実行した解決案を評価する方法について理解する。
	データの活用	・ データを収集したり、整理したりする方法について理解する。 ・ 表計算ソフトの活用方法について理解する。 ・ データを適切なグラフや図に表現する方法を理解する。 ・ データ分析の手法について理解する。 ・ データベースの種類とその仕組みについて理解する。
	モデル化	・ モデル化の意味について理解する。 ・ モデル化の分類について理解する。 ・ モデル化する手順と方法を理解し、様々なモデルを作成する。
	シミュレーション	・ シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。 ・ 問題解決のためにシミュレーションを活用する。
	プログラミングの方法	・ アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・ プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。
	プログラミングの実践	・ 変数を使用したプログラムを作成する。 ・ 関数を使用したプログラムを作成する。 ・ 多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】1学年全員（一般クラス、国際教養コース）
----------------	--